

平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

教務主任編 視点「校内研修・職員研修の充実」

	1 戸田第一小学校	2 戸田第二小学校	3 新曽小学校	4 美谷本小学校	5 笹目小学校	6 戸田東小学校	7 戸田南小学校	8 喜沢小学校	9 笹目東小学校	10 新曽北小学校	11 美女木小学校	12 芦原小学校
小学校	<p>○平均正答率が低かった問題の原因分析と課題についての周知及び共通理解</p> <p>○各学年における段階的達成内容の把握</p>	<p>○知育パート研修における朝学習の在り方の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字 … ドリル学習・プリント学習 ・書くこと … 視写の時間の設定 <p>※eライブラリの活用方法の検討</p> <p>○思考力・表現力を高める学び合う授業づくり【アクティブ・ラーニングの研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「語り（書き）たくなる」発問研究 ・児童が「考えたくなる」教材研究 <p>○基礎的な知識を定着させる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段掲示物の作成 <p>○研究成果を次につなげるPDCAサイクルの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の視点→研究授業（次の授業への課題）→研究協議→研究成果の分析（研究通信の作成）のサイクル ・研究内容チェックシートを活用した全教職員による共通理解・共通指導 	<p>「話すこと・聞くこと」に関して、国語を軸とした各教科において、協調学習の手法を取り入れることで、自分の考えをもち、伝える機会を増やすことで言語活動の充実を図る。</p> <p>朝の自習時間を活用し、各学年の実態に合わせた、文法プリント作文プリントを用意し、文法に関する理解を図るとともに、書くことへ抵抗感をなくす。</p> <p>慣用句、ことわざに興味関心を持たせるために、各教室にまんがで読むことわざ事典などを用意、階段、廊下に掲示を行う。</p>	<p>1 分析の周知について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各調査が発表された時点で、教務主任が速報を出し、職員に周知する。 ・教務主任、学力向上部、各学年等で分析を行い、実態や改善の取組に向けた研修を実施する。 ・学力向上けやきプランを各調査分析を踏まえたものにし、学力向上に向けて取り組む。 <p>2 埼玉県学力・学習状況調査全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかった点については、児童をほめて自信を持たせる。得意意識を持たせ更に伸ばす。特に、無回答率が低いことについてはほめ、今後も継続して指導に当たる。 ・課題のあるものについては、①重点指導単元の設定、②当該教科に於いて継続的な指導、③いきいきタイム等での重点指導、④宿題等での対応、⑤その他の対応に学校、各学年で取り組む。 ・学力向上けやきプランに分析をふまえた改善策を掲載し、実践することで学力の向上を図る。 <p>3 国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書く能力」の向上を図る。 ・日常的に、記述による表現、説明等を使った授業を行う（国語だけではなく他教科も含む）。 ・各学年で課題の挙がっている問題について指導を重点化する。 <p>4 算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数量関係」領域、「数学的な考え方」の観点を重点的に指導する。 ・「数量関係」の特に「グラフ」について指導を強化する（今後の単元、復習等） 	<p>授業改善を図るために、スタンダードの再確認・徹底・改善を行う。ユニバーサルデザイン化された授業で、合理的配慮を取り入れたわかりやすい授業づくりに努めることで、学力低位の児童の底上げを図る。また、従来の授業形態に固執することなく、本校のレベルに合わせたアクティブ・ラーニングの考え方や手法を取り入れた授業づくりを校内研修で推進し、一人一人の教師の指導力向上を図る。今年度後半は「シェア」の活動の充実を図ることや「授業のしかけづくり」の研修を、授業研究を通して進める。</p>	<p><調査結果より、重点目標4つ設定></p> <p>①授業の充実…45分後の児童の姿をイメージする（目標設定）</p> <p>②家庭学習の定着③読書活動の推進④学んだことを生活に生かす実践力の育成</p> <p><具体的な取組></p> <p>○全国と埼玉県学力・学習状況調査の分析・考察（成果と課題）→学力向上プラン作成→周知</p> <p>○読書活動の充実・・・読書マラソン全学年実施の継続、低→100冊以上/中・高→1万頁以上</p> <p>○家庭学習定着・・・「家庭学習の手引き」</p> <p>○とだっ子学習クラブの積極的活用と連携・・・eライブラリの活用</p> <p>○「授業の基本（月間）」の実践</p> <p>○ローマ字連絡帳・時間割</p> <p>○保護者参加型授業・・・学校応援団</p> <p>○ICT機器の活用・・・デジタル教科書、みエルモン、かけるもん等</p> <p>○市主催のコンテスト積極的参加</p> <p>○教員対象の実技研修・模擬授業、示範授業</p> <p>○道德の授業・・・年1回以上保護者・地域に公開</p> <p>○戸田市規律アンケートの分析</p> <p>○漢字小テスト実施</p> <p>○新聞を取り入れた学習活動実施</p> <p>○暗唱発表会</p> <p>○制限ありの要約</p> <p>○プレテストの実施</p> <p>○授業導入時における弱点補強時間の設定</p> <p>○コツコツタイム（朝学習）の意図的・計画的な実施</p> <p>等</p>	<p>道徳の時間にも積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れ、児童主体の様々な学習形態を工夫している。</p> <p>考える道徳や本校の道徳授業の進め方を確立・発展させていく。</p> <p>「書くこと」を重視し、主人公の気持ちや心の動きなどにふれ、文章化させる活動に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>①授業開始時（国・算）3分間の「スイッチタイム（仮称）」を設定し、問題や出題方法等、取り組みの記録を行う。学習に向かう姿勢・やる気を引き出す、一層効果的な活動となるよう、随時検証改善を行う。</p> <p>②考えを共有し、話し合い、学び合いをより活性化させる授業を展開できるよう、ベネッセ「ミライシード」等の新たな思考ツールの効果的な活用を研究する。</p> <p>③学習習慣の確立と学習内容の定着のために、家庭学習の充実を目指す。児童への他に保護者への啓発を強化する。その際、外部機関等の協力も積極的に活用する。</p>	<p>協調学習を中心としたアクティブラーニング研修会、ベネッセ「ミライシード」研修会、若手教員研修会等を職員研修に取り入れ、新しい学びに対応できる体制をつくる。</p> <p>学力向上推進委員会を7月21日から、9月中旬までに4回行い、本校の課題を分析し、改善策を話し合い、その中から出された改善策を実践している。後期も見直しを図るために2ヶ月に1回程度行う予定である。</p>	<p>前年度まで取り組んだ言葉遊びタイム・少人数の話し合い・課題設定の明確化を充実させ、児童達に学習の基礎的・基本的な知識及び技能を定着させていきたい。</p> <p>模擬授業・研究授業を各3回行うことにより、校内課題研究も充実させていきたい。</p>	<p>校内研修で3年間取り組んできた問題解決型の授業を今後も継続するために、年度初めに職員共通理解を図る。</p> <p>パワーアップタイム、スピーチの取組を継続する。</p> <p>全教科領域で進めている話し合い活動（3人で話し合う）等、学び合いを取り入れた授業を展開する。</p>	<p>国語の「書く能力」の向上を図るためにスキルタイムで自分の考えを書いて表現する活動に取り組む。</p> <p>各教科の特性に応じた言語活動を充実させ、児童に思考力・判断力・表現力を付けさせる。</p> <p>算数の「図形」についてはスキルタイムで図形の問題を意図的に実施し、理解を深める。</p> <p>算数的活動を積極的に取り入れ、具体物の操作による感覚を高める。</p> <p>ICTの活用を今まで以上に重視し、視覚的提示により、児童の理解を深める。</p> <p>算数コーナーを設置し、具体物に自由に触れることのできる環境を整える。</p> <p>「芦原算数授業スタイル」の共通理解をさらに図り、板書の工夫や導入の工夫を課題研修の中で深めていく。</p> <p>協調学習、ミライシードなどALを積極的に取り入れ、児童の意欲を高める教材開発や、指導法の工夫を行う。</p>

平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

教務主任編

視点「校内研修・職員研修の充実」

	13 戸田中学校	14 戸田東中学校	15 美笹中学校	16 喜沢中学校	17 新曽中学校	18 笹目中学校
中学校	<p>どの教科も、県・市の平均正答率を大きく上回っている。この結果を維持するためにも、今後も、定期的な教科部会を実施し、3学年共通の取り組みを続けていく。さらに、アクティブ・ラーニングによる確かな学力の向上のため、指導方法の工夫改善について研修を深めていく。</p>	<p>今後取り組める可能性があるもの→● 現在実施しているものでさらに高めていきたいもの→○ ＜教諭から生徒への働きかけ＞ ○授業規律の確立、ルールの徹底 ●UD化 ○視聴覚教材やICTの効果的利用 ○アクティブ・ラーニングの考えに基づいた小集団での学習やグループ学習、ジグソー法などの積極的に取り入れた授業展開 ○個で考える時間と小集団で考える時間を明確にした授業展開 ○実験や体験的な活動を取り入れた授業展開 ○再テストの実施 ○定期試験前の補習 ○放課後学習室の実施 ＜教諭から教諭への働きかけ＞ ○教員個々の授業力向上 教科会を定期的に行き、良かったこと、反省点・改善策などを具体的に話し合い、互いの授業力の向上を図る。 ○教科ごとに公開授業の実施や年1回以上の公開または研究授業の開催 ○管理職による指導 ●指導案や研究資料などの電子ファイルの校内情報共有の充実 ＜学校から家庭へ＞ ●家庭学習の充実→宿題の提示だけでなく、保護者への通知文書の作成 ●保護者が生徒の家庭学習時間の記入および捺印による確認 ○長期休業中の宿題の提示 ○宿題未提出者に対する+a学習 ＜学校から地域社会へ＞ ●地域社会へ教育の精通している方にボランティアで授業の補助、補習や放課後学習室の実施をしていただく。 ●青山学院大学との連携を図りながら、学力向上を図る。</p>	<p>昨年度より、週末課題、計画的な宿題設定、朝や放課後の学習会、学習に関する掲示物、家庭学習の手引き、レディネステストなどの取り組みを行ってきた。また、校内研修として、昨年度は家庭学習の習慣化のための取組、本年度は授業改善のためにアクティブ・ラーニングについて研修を行ってきた。その成果として、年々正答率は上がってきている。昨年度より取り組んでいることを、校内研修を中心として、よりよいものにして、引き続き行う。</p>	<p>授業に関して「すっきり」「はつきり」「見える化」「つながり」「学び合い」の5つのチェックポイントを基にユニバーサルデザイン化を行う。 アクティブ・ラーニングについて「ジグソー法」等、様々な技法を習得し、授業実践に役立てるよう研修を行って行く。 ICT機器の有効的な使用方法を学ぶ機会をつくり、授業実践につなげる。</p>	<p>アクティブ・ラーニングを生かした特色ある授業の研究を推進する。 放課後を利用して学習支援員と連携した学習活動を研究する。 埼玉県学力・学習状況調査を個に生かす指導の工夫を研究する。 これらを来年度の研究課題に含め取り組みたいと考えている。</p>	<p>3年間の委嘱を受け、数多くのプロジェクトを一人ひとりがプロジェクトのリーダーとなり、実践してきた。その効果がいくつかの学年や教科で数値としてあらわれてきた。校内研修では、全学テの分析を始め、「ICT」や「協調学習」、「ユニバーサルデザイン化」について、共通行動のための有意義な研修ができた。今年が研究3年目であるが、これらのことを継続していきたい。来年度は、全学テB問題の正答率を上げるために、「協調学習」をはじめとするアクティブ・ラーニングについて深める研修にしていきたい。</p>